

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	掛川センター		
○保護者評価実施期間	令和5年 10月 20日		～ 令和6年 10月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39 (回答者数)	36
○従業者評価実施期間	令和5年 10月 20日		～ 令和6年 10月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 10月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験値が多い職員が勤務しており、児童に対しても付き合いがながく、顔色からも体調の変化に気づけたり、特性を理解できてきめ細かい支援につなげていけている。	それぞれの強みをお互いに認め合うと同時に、苦手な分野も理解できているため助け合っているチームワークで運営できている	職員全体での情報共有を行い、これまで以上に意見交換できる場を作っていく。男性職員が少ないため、人材の確保。
2	活動プログラムの多様性	5領域を意識した内容をとり活動内容をいれており、季節を感じる行事や過去に行われたプログラムに捉われず、新しい試みを考えるように心がけている。	日々の活動記録やミーティングの中での活動内容の振り返りを行い、生かしてプログラムを行っていく。保護者にも毎日の内容が伝わるように写真等で発信していくことを定着させる。
3	児童の年齢層の幅が広く、上級生から下級生までのコミュニケーションがよくとれている	年齢の垣根をこえて、発達段階の異なる児童の交流できる場となっている。少子化によって年齢の異なる子供同士の関わり合いが減少しているが、上級生が下級生の面倒を見たり、下級生が上級生を憧れたり真似したりして、人との関りを学べる。	活動によって、集団・小集団・個別を取り入れて、お互いを認め、継続できるように声掛けを行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者・兄弟の参加型イベントはあるが、保護者だけの交流の場・研修の場が設けられていない	平日開催や休日開催等の日時の設定を考え、まずは参加型イベントで交流を図ることを優先していた。	事業所を理解していただいたり、保護者同志の交流の場として保護者会を開催できるように努めていく。ペアレントトレーニングの研修を少人数や日時が選べるように取り組んでいく
2	配置基準は足りているが、少人数・個別に対応していくには職員増員が必要である	職員間の声掛けを多くし、行動がスムーズに行えるようにしている。ミーティングで少人数・個別の役割・時間等も明確にしてから行う。	掛川センターの取り組みや姿を発信して知らせる機会を増やしていく。近隣の大学や専門学校等にアプローチしていく。
3	年齢差があるため、年齢よってのプログラムの充実	小学生向けでは中高生には簡単であり、その逆もみられるため選択できるプログラムを用意する	小集団や個別に向けてプログラムの選択の幅を現状より増やしていく必要がある。年齢・特性・状況により、集団・小集団・個別を行っていく